

重要インフラ緊急点検を踏まえた 暫定2車線区間の対応について

平成30年7月豪雨における高速道路の効果

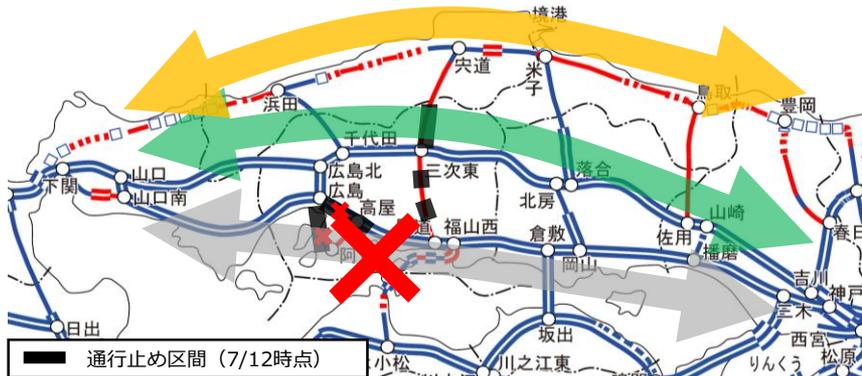
- 平成30年度豪雨において、
 - ・被災により通行止めとなった高速道路の広域迂回路として道路ネットワークが機能
 - ・被災した4車線区間のうち2車線を対面通行として交通機能を早期に確保するなど、これまでの整備により、災害時に一定の効果を発揮

＜山陽道の事例＞

- 東西の大動脈である山陽道が通行止めとなったが、被災後は補完する2ルート(中国道及び山陰道)により広域交通の機能を確保(中国道は平常時の約5倍(0.5万台 ⇒ 2.4万台))
- 山陽道(河内IC～広島IC)において、片側一車線を優先啓開し、コンビニ等への物資輸送車両の交通機能を早期確保

＜高知道の事例＞

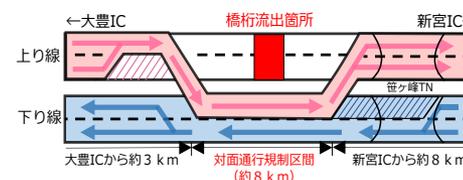
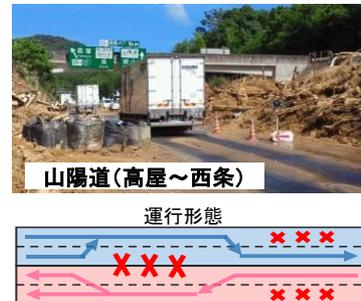
- 高知道(川之江東JCT～大豊IC)において、上り線の橋梁が流出する大規模被災だったが、4車線であったため下り線を活用し、早期に交通機能を確保



<区域外からの土砂等流入による被災状況>



<片側一車線での物資輸送車両の通行状況>



法面危険箇所における対策内容

「重要インフラの緊急点検に関する関係閣僚会議」(総理指示)に基づく

重要インフラ緊急点検

高速道路の法面・盛土等について、土砂災害等の課題※¹があり、地形的に崩壊や落石等の危険リスク※²を有する箇所を抽出

法面危険箇所
71箇所※³ 約1,400km※⁴

うち、暫定2車線の
対面通行区間延長 約470km

※1 以下のいずれかに該当する箇所

- ・土砂災害警戒区域、特別警戒区域等の影響箇所
- ・平成21年度以降に土砂災害履歴がある箇所
- ・既往点検の危険箇所

※2 以下に該当する箇所(未対策)

- ・高さ15m以上、勾配45度以上の法面(落石・崩壊)
- ・流域面積1ha以上、上流の最急渓床勾配10度以上(土石流)等
- ・高さ5m以上の集水地形箇所(盛土)
- ・雨水が集中する沢部等

※3 「箇所」の計上方法については、路線別の都道府県毎の区間を1箇所としている

※4 法面危険箇所があるIC間延長の合計

<対策内容>

① 暫定2車線区間の機能強化(4車線化等)

法面危険箇所がある対面通行区間(約470km)において、4車線化を実施



② 法面对策

法面危険箇所において、法面法枠工などの法面对策を実施



高速道路の機能強化の加速

※平成31年度道路局関係予算決定概要
平成31年12月21日

昨年度に引き続き、財政投融资を活用して、①**暫定2車線区間の機能強化による防災・減災対策**、②**生産性向上のための新名神高速道路の6車線化**を行う。

<金利負担軽減の活用等>

超長期(40年)・固定の財政融資1.0兆円の追加



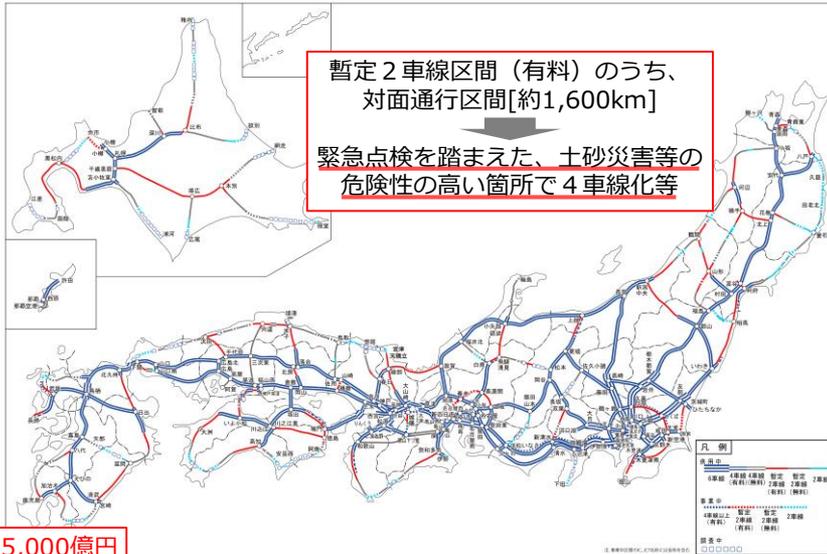
高速道路保有機構
: 7,000億円程度の金利負担の軽減
⇒ 債務引受余力が増大



高速道路会社：投資余力が増大
(財投活用による整備箇所)
○暫定2車線区間における4車線化等の実施
○新名神(亀山西JCT~大津JCT)の6車線化

<事業(例)>

重要インフラの緊急点検を踏まえ、防災・減災対策のための暫定2車線区間における4車線化等

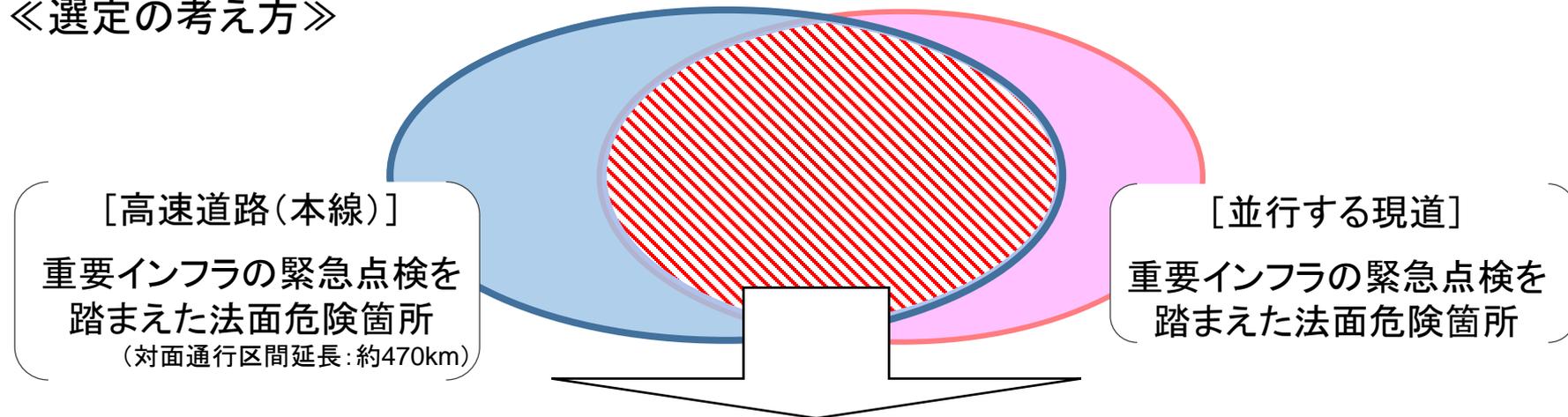


ダブル連結トラックやトラック隊列走行の実現を見据え、新名神の6車線化による生産性向上



H31年度財政投融资を活用した4車線化等実施箇所の選定の考え方

《選定の考え方》



本線及び並行現道ともに法面危険箇所がある区間のうち、特にネットワークが寸断する可能性が高い箇所(約85km)を財投を活用した実施箇所として選定

※特にネットワークが寸断する可能性が高い箇所の考え方

① 本線及び並行現道ともに雨量による事前通行規制が概ね200mm以下の区間

- ・磐越道(三川～安田) [約5km]
- ・東海北陸道(白川郷～五箇山) [約3km]
- ・米子道(江府～溝口) [約4km]
- ・広島呉道路 [約12km]

又は

② 災害による2日間以上の通行止め実績がある区間(被災履歴は平成15年～)

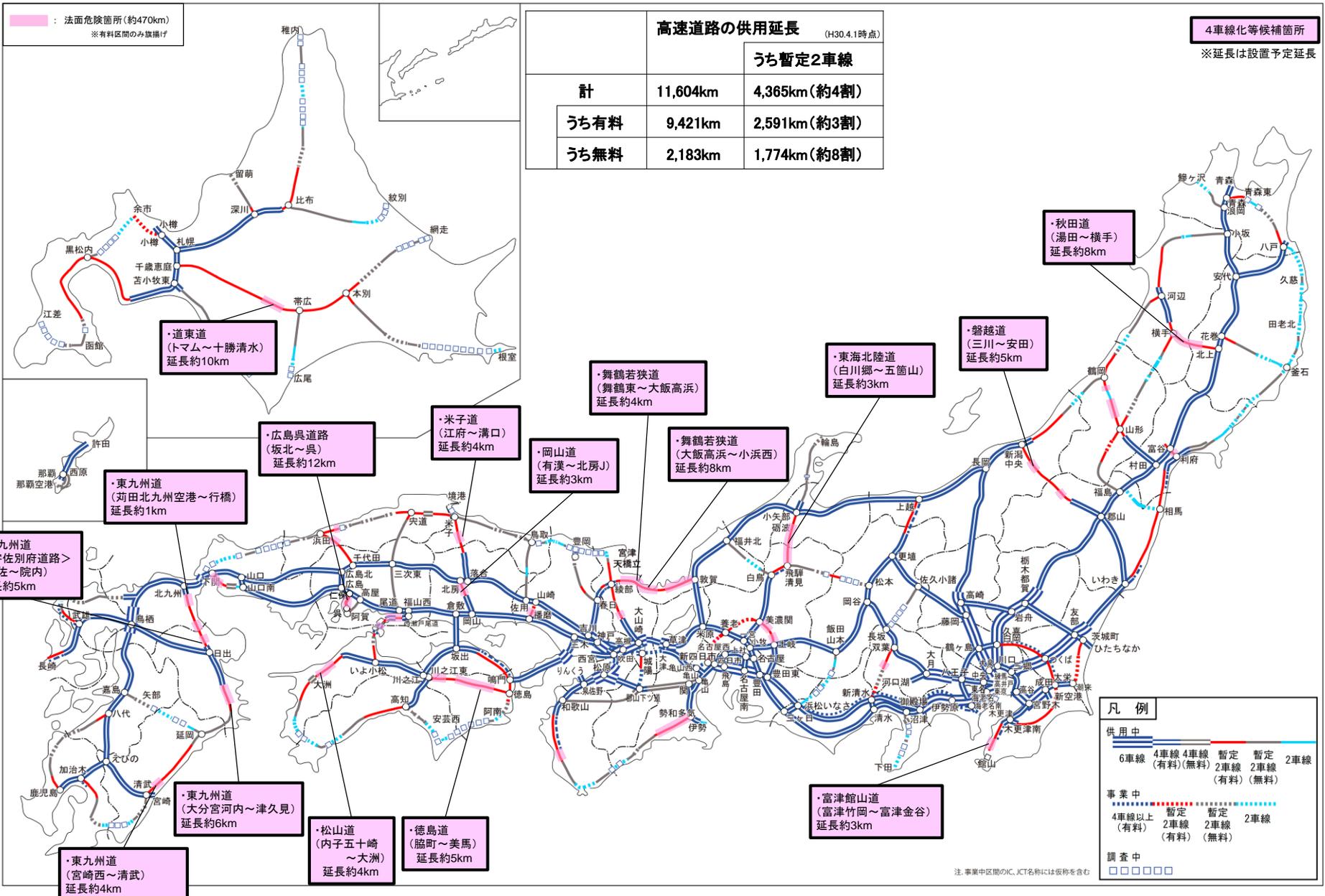
- ・道東道(トマム～十勝清水) [約10km]
- ・舞若道(舞鶴東～大飯高浜) [約4km]
- ・舞若道(大飯高浜～小浜西) [約8km]
- ・岡山道(有漢～北房J) [約3km]
- ・東九州道(大分宮河内～津久見) [約6km]
- ・東九州道(宮崎西～清武) [約4km]

又は

③ 本線に被災履歴があり、かつ、速度低下による事故発生の可能性が高い区間(被災履歴は平成15年～)

- ・秋田道(湯田～横手) [約8km]
- ・富津館山道路(富津竹岡～富津金谷) [約3km]
- ・徳島道(脇町～美馬) [約5km]
- ・松山道(内子五十崎～大洲) [約4km]
- ・東九州道(苅田北九州空港～行橋) [約1km]
- ・東九州道(宇佐～院内) [約5km]

財政投融资を活用した4車線化等候補箇所



広島呉道路(坂北～呉)

広島呉道路
(坂北～呉)



【凡例】

- 被災箇所
- 重要インフラ緊急点検
法面危険箇所(高速本線)
- 重要インフラ緊急点検
法面危険箇所がある並行現道
- 付加車線(設置済)
- 事業箇所
- 主な速度低下箇所

広島呉道路(坂北～呉)

延長 : 12.7 km
 開通 : H14.20(天応西～呉)
 H29交通量 : 12,600～13,800台/日
 災害通行止め実績 : 3回(計約3,994時間)
 <H15-H30>
 本線事前通行規制 : 150mm(連続雨量)

連続雨量はH306月時点のもの



《被災箇所》



被災年月日:平成30年7月6日
 通行止め:84日間

《法面危険箇所》



事業費:730億円 6

岡山自動車道(有漢～北房JCT)

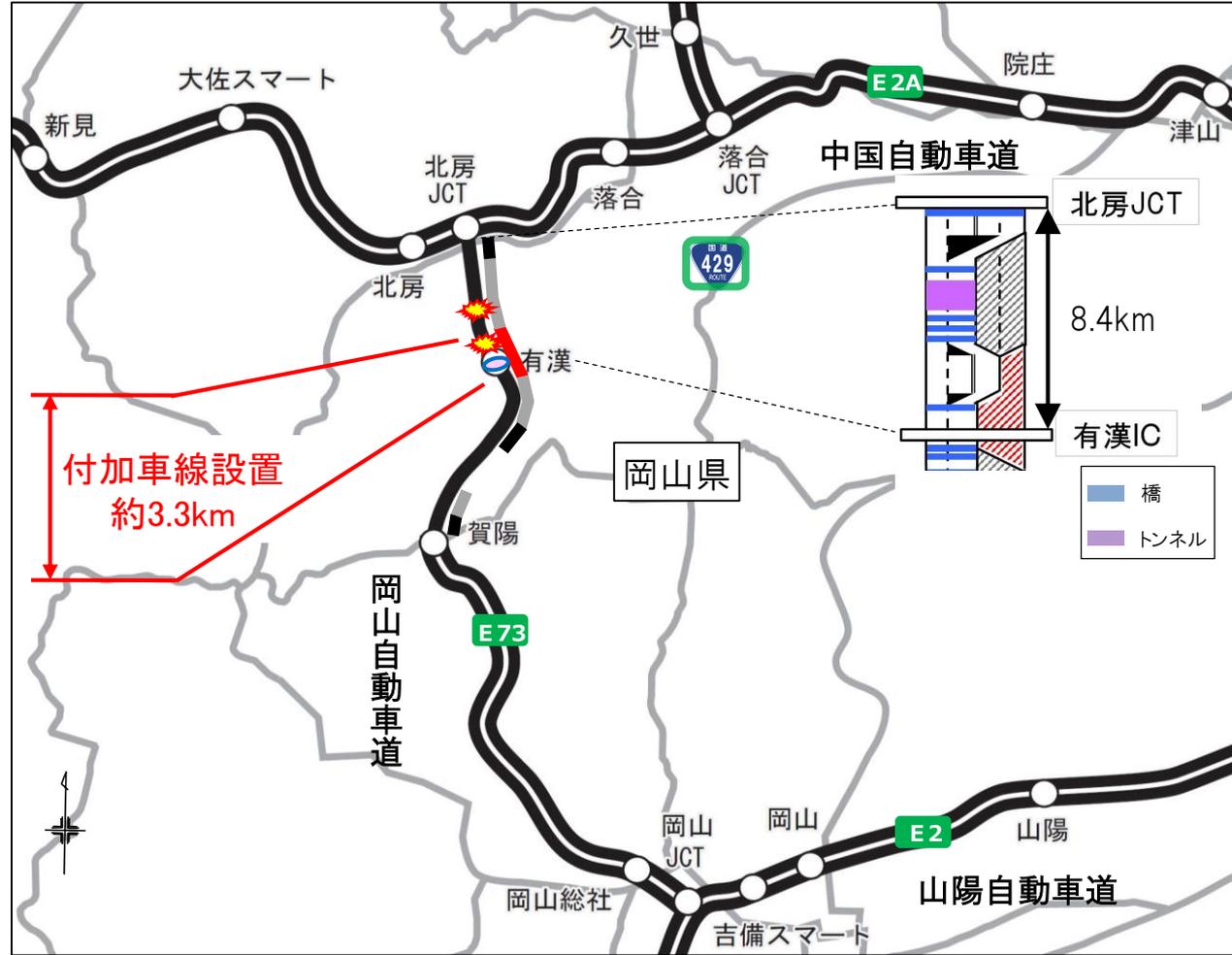


【凡例】

- 被災箇所
- 重要インフラ緊急点検
法面危険箇所(高速本線)
- 重要インフラ緊急点検
法面危険箇所がある並行現道
- 付加車線(設置済)
- 付加車線(事業中)
- 事業箇所

岡山自動車道(有漢～北房JCT)	
延長	: 8.4km
開通	: H9.3.15
H29交通量	: 9,300台/日
災害通行止め実績	: 4回(計約209時間) <H15-H30>
本線事前通行規制	: 140mm(連続雨量)

連続雨量はH30.6月時点のもの



《被災箇所》

《法面危険箇所》



法面の崩れ

被災年月日:平成24年7月10日
通行止め:4日間

事業費:170億円

付加車線設置に伴い、整備計画を変更予定